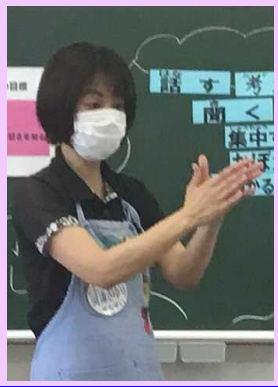
第６号　本小の教育「授業研修会」　6年特設

○インクルシーブ教育「特設・脳の引き出し」

本日の特設授業「最上級生の６年１組」を持って、特別支援教育コーディネーターの「河津さゆり」先生の『脳の引き出し』は、３年～６年の全１２クラスの締め括りである。今回のこれが単発授業のイベントで終わらぬ工夫として、大きなハート型の「ふわふわ言葉」掲示物を考案した「さゆり先生」本当に有難うございます。この方法だと「言葉」が増やせる。常時、確認し、振り返ることができる。「自分の言葉」を「可視化」することで、意識が更に高まっていく。全ての学年で実践し、キャリア（パスポート）教育にも「繋げて」欲しいものだ。

■　6年1組（特設）「河津さゆり（佐久川　和幸）」先生　５校時目



【児童の手（学習規律）】



◆机上に必要なものだけが準備されている。
◆子供達の「学習規律」は、とても良かった。
◆さすが「最上級生」である、自覚を感じた。
◆自己の事だけでなく、友達の良さも発見。
◆聴く、話す、書く、考えるのけじめが良い
◆当たり前のことが、当たり前に出来ている。
◆本時の学習の「授業目標」を理解している。
◆発表者は、発表の仕方が適切に出来ていた。
◆周りの子達は、発表者へ体の向きを揃えた。
◆発表後は、賞賛（承認）の拍手を送った。



【教室の色（支持的風土）】

【Being】＜セロトニン＞「ふわふわ言葉の掲示物」

■各学級（個々）が、作成した「ふわふわ言葉」を大きなハートに貼り付けて、学級掲示用に作りかえた。　。**（常時、振り返りが可）**
●全学級でこれを作成し、教室又は、学年スペースに掲示する予定である。**（自らの言葉）**
●授業後も「脳の引き出し」を生かしていく工夫がとても素晴らしい。。**（可視化する）**





師の眼（教師の姿勢）



●学級・学年経営の「そろえる」を強く感じた。
●子供達に最上級生を意識させる教師の取組み。
●一人一人が目をキラキラ輝かせて活動してた。。
●さゆり先生の授業展開は、サスガ～に凄い！
●支持的風土づくりの[４POINT]を踏まえてる
●クラスの人間関係をも構築、高めながら進む
●子供達が自然に、自分の考えを口に出せる。
●「魔法の言葉」セロトニンを巻き込みながら、
●「安心」「所属」「承認」に　包まれながら、
●「本時の目標」へ、「自立」へと、進んで行く。



■■■■「ジョハリの窓」■■■■

ジョハリの窓は、心理学者のジョセフ・ルフト（Joseph Luft）氏とハリントン・インガム（Harrington Ingham 氏の両名によって1955年に考案された概念であります。

それは**「自己」と「他者」から見た「自己の領域」**を表すものです。対人関係の進展や自己理解に利用され、**キャリア教育（進路指導）**に於いての能力開発にも活用されているものです。

具体的には、自分自身の特性を「4つの窓」（**開放**、**盲点**、**秘密**、**未知**）に分類したものとなります。「自分による自分の分析結果」と「他人による自分の分析結果」を統合して該当する窓に当てはめていくことで完成させます。

一般的には、「**開放の窓**（自分も他人も知っている特性）」を広げていき、「**未知の窓**（自分も他人も知らない特性）」を狭めていくことが良いとされています。「友の引き出し」を少しずつ開ける手助けをする。

【感想】　**「脳の引き出し」、特別支援に関する大切な「特設授業」でした。 本当に有難うございました。♥**

○「まず、授業参観後に気持ちが良い。清々しい気持ちで一杯である。子供達も同じ気持ちだと思う！」
○「中学年では、（発達段階もあり）理解させる、に留まっていた。が、更に６年生は上昇ステージだ。」
○「理解し、受け容れ、更に「よさ」を発見してあげられる。将に、『開放の窓』を広げてくれている。」
○「今、必要な「自己肯定感」「夢と現在をつなぐ」「自分の存在意義」「連帯と協働」が詰まった授業だ。」
○「６学年生、キャリア教育と関連づけて。授業の振り返りとキャリアパスポートの活用を模索しよう。」
○「さゆり先生の脳の引き出し授業と、和幸先生の学級経営との協働の成果です。今後にも期待感が高い」



校長より